
My武器 鉄バット

オーキス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

My武器 鉄バット

【Nコード】

N5540M

【作者名】

オーキス

【あらすじ】

ほぼ毎日の日課である喧嘩撃退を終えて帰ってきた主人公が、寝て起きた時に目にした光景はいつもの自分の寝室ではない、全く知らない場所だった。

プロローグ（前書き）

次から後書きと前書きで新しく出てきたキャラの紹介をしたりします。

プロローグ

地球のように蒼く、緑豊かでありながら地球とは似て非なる世界、『グランテスタ』……………

ここは遙か昔、星が形成され始めた頃、巨大な隕石が衝突し、結果二倍にまで巨大化した。

その後、地殻変動を起こしながら様々な大陸や島々を作り出し、そこに人間をはじめ、普通の動物や様々な特性を持った魔物、長命のエルフ、手先の起用なドワーフといった亜人と呼ばれる種族が出現した。

そんな世界でとある一人の学者が『魔法』の存在を発見、その技術は瞬く間に広がっていき、ある人は火を、水を、風を操る……………
・そんな光景が次第に当たり前となっていた。

その他にも、ある所では機械技術も発展していき、世界は急速に発展していった。

しかし、その一方では魔法や機械を使った犯罪が増え、魔法や機械が出現して発展してから五百年の間で、大きい戦争だけで七回も起こった。

その戦争によつて混沌とし、疲弊している世界に、この星を破壊する為だけに生物の悪意によつて生まれた邪神、『禍神』が現れてしまった。

そのため、人や亜人は終戦し協定を結び、世界の敵である邪神を倒すことにした。

しかし、相手は生命の悪意の塊、腐つても神と呼ばれる者。人々

が力を、知恵をあわせたとしても力は雲泥の差、天と地ほどにも違いがありすぎた。

人々が諦め、絶望し、希望が無くなりかけていた時、救世神、『メシアン』が動き出した。

神は十二の者達に力を授け、また神自身もその十二人と共に邪神へと挑んだ。

しかし、いくら神によって絶大な力を手に入れたとしても人々と邪神の基本スペックが違う。その為、戦いは苦戦を強いられることになる。

そこで神と十二人は一つの兵器を創り上げた。

それが、終焉の名を持つ最終人型極殺獄戮鬼畜兵器、『ジエンド』

ジエンドを加えてからの戦いは長きに渡った結果、倒すことは出来なかったものの、封印することに成功した。

だがしかし、封印が成功した代償として神は力を使いすぎてしまい、長い長い眠りに着くこととなってしまった。

その後、邪神を封印した十二人は英雄として歴史に深く名を残し、眠りにについている神は一つに纏められた宗教の崇める絶対神となる。後にこの大戦を『邪神封神戦争』と呼ばれることとなる……………。

また、終焉の名を持つ兵器は密やかに数々の改造を施され、エネルギー体へと変換された後、悪人に使用されないようにと封印した。

ジエンドとは違う、『クロノス・D・アーヴェ』という名をつけられて……………。

それから数千年が経った。

今では、魔物が相変わらず出現する位で昔に比べて比較的に平和になったこの世界では、以前のように種族間での争いは無いものの、人間は亜人らを自分らより格下と見下すものが増え、他種族も人との関わりを持つとする種族が少なくなっていた。

そんな世界に、寝ている間に何故か他の世界から飛ばされてきた一人の男がいた……………。

序章 - 1話 (前書き)

。

序章 - 1話

とある路地裏……………

「げるふおあぁー!!」

そこでは今、複数人のガラの悪い男達……………所謂不良が一人の青年に、一人だけを除いて全員が倒されていた。

それも全員が全員、頭から血を流してたり、体のあちこちに打撲痕がある状態で、だ。

「……………。」

それをやっている張本人である青年はというと、顔を俯かせ、眉間に皺を寄せつつ無言で黒い鉄バットを手に持ち、だらんとたらしめている。

その状態で最後の一人に視線を向けるとそいつは腰を抜かしており、しかも失禁をしてまで情けなく怯えていた。

「ひ、ひいいい……………!!」

(なんだあいつは!なんなんだあの野郎は!なんなんだよお!!)

鉄バットの青年は、完全に混乱状態に陥っている不良という獲物に狙いを定めると、歩いてゆっくりと近づいていく。

腰を抜かしている不良が手を使って後退していくが、それでもすぐに壁に背中が当たり、行き止まりとなって青年に追いつかれてしまった。

「お、俺らが悪かった!!謝るから!!謝るからせめて俺だけでも

見逃してくれ!!」

必死に謝る不良。

しかし、青年はそんなこと聴こえていないでも言うように左手に持つ鉄バットを頭上にまで上げ、頭目掛けて勢いよく振り下ろす。

それだけで最後の一人も頭を殴られ、他の者達と同じように血を流しながら気絶してしまった。

「ハントツ、雑魚どもが……………」

青年はそう低い声で言いつつ、背中側に回っていたバットケースに鉄バットを収める。

それから倒した男たちの服を探り、財布を見つけるとそこから札だけを抜き取り、更にパンツ以外の服を全て脱がして燃やして捨てた。正に追い剥ぎその物である。

それを全員にすると、満足したのか火を点けたタバコを啜えながらその場を後にした。

なお、不良たちは伸されてから約8時間後に近くを通りかかった一般市民に通報されてから助かったが、後に自分たちが誰に喧嘩を売ってしまったのかを知り、激しく後悔する事となったのであった。

「ひーふーみーよー……………」と、5万と8千円か。

まあまあ額だな。」

一方、中々の金額を奪い取れた青年は金をホクホク顔で自分の財布の中に入れると、そのまま近くにあったコンビニに入り、欲しい物を買っただけ買って自宅へとむかう。

この青年、全体的にパーツはいい為イケメンの部類に入るはずなのだが、眉間にしわを寄せていて目つきが悪いのと、何より髪の毛が毛先以外赤い為に先程のように不良達に喧嘩を吹っかけられてしま

うのだった。

「あー……………」。
もっと楽しいことないのかなあ。異世界に行けちゃったりとかさ……………」。

何かの電波を受信したのか、こんなことを口走る青年。

しかしこんなことを言うものの、2日に一回のホストの仕事、1回はほぼ必ずある喧嘩、ゲームや漫画やテレビ等好きな事をやっている為、わりと楽しんでいたりする。

実際、先の喧嘩をする前にもホストの仕事帰りの途中で起きてしまったものである。

ちなみに、仕事中は眉間に寄せている皺もなくなっていたりすると、なんだかんだと言っているうちに自宅に着いた。

青年が住んでいる家は普通よりも高級なマンションで、オートロック式の鍵の家である。

「ただいま」、つと。」

一人挨拶し、家に入ってすぐさま着替える。

格好は黒に赤い線が所々入っているジャージだ。

今の時間は既に朝の8時過ぎ。

仕事帰りのため、今から寝るのだった。

それから6時間後の午後2時。

しっかりと寝れたのか、割と目覚めが良かった青年は身だしなみを整えた後に着替え、遅めの朝兼昼飯を食べると、しばらくネットサーフィンをしてから街中へと繰り出した。

これが彼のいつもの日常だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5540m/>

My武器 鉄バット

2011年10月6日16時58分発行